第2回高石市行政計画審議会 議事結果概要

開 催 日 時	平成27年12月25日（金） 午前10時00分～正午
開 催 場 所	高石市役所 別館3階 多目的ホール
出 席 者	日野会長、佐藤委員、佐野委員、合田委員、松村委員 久野専門員、杉原専門員、畠中専門員、山崎専門員、吉美専門員
議 事	議題1 高石市総合戦略の策定について
資 料 等	次第 委員等名簿 出席者名簿 高石市総合戦略の基本的方向性について（たたき台） 国と地方における人口ビジョン・総合戦略の構成（イメージ） 高石市の人口動向等に関するデータ

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
日野会長	<p>議題1 高石市総合戦略の策定について</p> <p>本日は子育て・教育のまちづくりと、快適な都市空間の構築、スマートウェルネスシティといわれる健幸で安心して暮らせるまちづくりについての高石市の現状、現在検討中の内容について、専門の先生方から意見をいただき、委員の皆さんも含めて意見いただきたいと思う。</p>
畠中専門員	<p>【子育て・教育のまちづくりについて】</p> <p>保育ニーズに対して一定程度の成果を上げているとのことだが、多様なニーズに 대응していくという戦略を一方で認めながら、他方では長時間保育が本当に望ましいのかという議論にも配慮すべきだと思っている。親のニーズと子どもの情緒発達のバランスをよく考えておかないと、親が利用するための利便性が高まれば良いという議論だけでは将来的に汚点を残すのではないかと考えている。</p> <p>在宅で孤立することが子どもに対する虐待の温床になる可能性を考えると、子育て支援センターのさらなる充実を図るべきだと考える。</p> <p>また、多子世帯への支援については国が新しい施策を出してきている。例えば、幼児教育の無償化といった議論をしているので、こういった国の施策を上手く活用していくやり方が一番順当ではないかと考えている。</p>
日野会長	<p>本日欠席の岩田委員からお預かりしている意見について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>子育て世帯に高石市に住んでいただくためには、産前産後ケアの環境が非常に重要であり、高石市のライフケアセンターの母子健康センターを中心とした産前産後ケアの充実に取り組んでいくべきであるというご意見をいただいている。</p>
久野委員	<p>人口が減少していく中、労働力は低下していく。そこで期待されるのは女性と高齢者である。働きたいという女性のニーズの確保がまず必要で、一方で、数だけ用意すればいいということではないということに対しては同感である。</p>
畠中専門員	<p>明治以来、保育は量の拡大しかしていない。質の拡大を言い続けているが、なかなか実現しない。質の議論は集団保育でいいのか、家庭的保育がいいのかまで含め</p>

	<p>て議論が必要である。量をつくれればニーズを満たしたという議論では十分ではない。</p>
日野会長	<p>問題はケアをする人材の確保である。学校教育現場は、先生方も時間も足りないといわれている。そういう中においては高齢者をもっと活用しないといけない。リタイアした方々の人材バンクを早急につくるべきと考える。</p>
吉美専門員	<p>高石市は小学校での英語に力を入れ、府の実施した使える英語プロジェクトチームに採択されている。今後、日本社会はますます外国との交流が増えると予想される。オリンピックも大きな流れを加速させる要因になる。グローバル社会に対応できる人材を育てるという観点からも英語教育には当然力を入れるべきである。聞く、話す、書く、読むの4技能をバランスよく習得するために、早期から慣れ親しむ中で力が付いていくと考える。</p>
日野会長	<p>ゆとり教育や色々な試みがあるが、ネックは入試制度である。そこでぶつかってコンフリクトを起こしてしまう可能性もある。</p> <p>杉原先生から教育、特に文教都市も含めて意見をお願いします。</p>
杉原専門員	<p>羽衣駅前再開発事業などで、視覚的に、この辺りは大学生が多いと分かるようなしかけづくりを大学、高等教育機関と連携しながらお考えいただきたい。</p> <p>それから、文教都市をアピールしていく時にキープレイヤーになるのが南海電鉄である。羽衣学園、高石高校、清風南海、南海福祉専門学校など学校名に駅名や会社名が入っているので、南海電鉄に羽衣、高石地区が文教都市だというイメージ戦略にも力を貸していただき、自治体、教育関係者が知恵を出し合うという戦略が必要だと思う。</p>
日野会長	<p>今提案いただいた2つめはブランド戦略の中で検討すべき事項だと思う。</p> <p>ハード、仕組み以外の部分で、子どもたちがどのように成長していくべきかを考える必要がある。</p>
佐野委員	<p>近所に親御さんがいない方は一人で孤立していることが多い。外にも出せない、公園デビューしてもコミュニケーションもあまり取れないという話を聞くと、早く就学前教育を無償化して適切な集団に入れることが必要だと思う。</p> <p>次に英語教育であるが、市内の学校訪問に行くと、階段や掲示板に英単語が書かれており、それぞれ工夫されている。英語専門の教室が設置されている学校も</p>

	<p>あり、教職員の関心の高さがうかがわれる。羽衣国際大学と連携できれば、本市の英語教育力も上がるのではないかと考えている。</p>
日野会長	<p>【健幸づくりの取り組みについて】</p> <p>地域との連携の中での都市空間の話や健康、安心、安全の暮らしといったところについて意見をいただきたい。</p>
久野専門員	<p>今、高石市でやっているインセンティブ、健幸ポイントは自助の強化になる。社会保障の制度そのものが公助であるが、これに国民が頼りすぎた。もう少し自助を強める必要があるのではないかと考えている。そこで努力を少ししていただくきっかけ作りがこの制度のポイントだと考えている。</p> <p>健幸ポイント制度は実は高石市で非常にうまく進んでいる。定員を超えた人が集まっている。平均して全国で約7割の成人が健康無関心層であるが、今回、千人のうち、8割の無関心層を引っ張り出した。ここが今回、高石市が上手くできたポイントだと思う。</p> <p>無関心層を減少させるためには、地域で情報を伝える影響力のある人、インフルエンサーの養成がカギである。情報をインフルエンサーに伝えて全市民に伝える仕組みを小学校区単位できちんとつくっていくことがコミュニティの再生に非常に寄与すると思われる。</p>
日野会長	<p>高齢者の参加しやすいスポーツなどについて意見をいただけたらと思う。</p>
吉美専門員	<p>女性は口コミを含めたネットワークの作り方が上手であるので、その辺も含めたスポーツのやり方を考えていくことが大事だと思っている。</p> <p>高石市はコンパクトなまちだが多様なニーズがある。野球をしたい人も、バスケットしたい人も、水泳をやりたい人もいる。色々なニーズがある。そういうニーズをうまく吸収しながら、総合型スポーツクラブのようなものが運営できないか検討していただきたい。</p>
日野会長	<p>スポーツクラブだけがすべてではないと思うが、高齢者やその前の世代、女性の方々など色々なニーズがある。久野先生、今の状況も含めてコメントをお願いします。</p>
久野専門員	<p>まず1点目は、高石市はフラットでコンパクトなため、移動手段が自転車という方が非常に多い。ただ、これから高齢化が進むと自転車から降りていただく必要が</p>

日野会長	<p>出てくる。また、高石に限らず、全国で自転車のマナーが非常に問題になっている。高石市は自転車のまちという特徴もあるが、その辺りをどのように考えていくか。</p> <p>2点目は、これからの総合型スポーツクラブは、中高齢の方も含めて参加できるようにすべきということが国から明確に打ち出されている。ぜひそこを踏まえた計画にしていきたい。</p> <p>私が今、一番推進したいのは同伴の移動を増やしたいということで、それを支援するようなサービスをすることが望ましい。同伴で移動すると寄り道が増えて移動も増えるので、生活の中での健康の話にもなるし、わずかであるが消費も増える。そういうことを考えると、一緒にみんなで出掛けよう。またそれを支えるシステムを考えなければならない。また、今後、公共交通、バスも含めた市内の移動手段についても考えていく必要があるということだろうと思う。</p> <p>【地域包括ケアシステムについて】</p>
日野会長	<p>医師会との連携について、本日欠席の岩田専門員より事前に意見を聞いていただいているということなので、報告をお願いします。</p>
事務局	<p>医師会として在宅医療介護連携支援室の委託を受けて、本年度より事業を実施している。医療介護連携に向けて取り組んでいるところであり、医療介護事業がますます増えていくことを見据えて、さらなる取り組みを充実していきたい。</p>
日野会長	<p>施設と地域包括ケアの方々と一緒に連携しながら、離れ離れになった高齢者をケアしていく事例も結構あるようだ。医療ももちろん必要だが、そういったことも大事だと思う。また、介護の待遇の話も大きな問題で、離職ゼロのところもあれば、短期間にかなり人が入れ替わるぐらい離職率が高い施設もあるようだ。そういう場合は地域包括ケアとの連携も難しいところもあると思う。</p>
山崎専門員	<p>今、社協では地域包括ケアシステムの構築の取組みの一つとしてコミュニティカフェの充実を目指している。コミュニティカフェは健康な高齢者の居場所をつくろうということで始め、現在、高石市内には約20カ所のコミュニティカフェが開設されている。平成28年には35カ所、29年には全市で50カ所のコミュニティカフェを開設したいと思っている。昔の井戸端会議のように特に目的はないけれども集まってお互いの情報交換やうわさ話をしたように、このコミュニティカフェもお互いに情報交換ができて、励まし合いができて、精神的に安心ができるという場に</p>

<p>日野会長</p>	<p>ていきたい。</p> <p>在宅介護でも、デイサービスなどに行くと元気になると聞くので、きっかけを提供することは非常に大事だと思う。また、町会デビューがものすごく難しいという話も聞くが、入りやすさというか、先駆けにもなると思う。</p>
<p>杉原専門員</p>	<p>団塊の世代の地域デビューの話でショックだったのが、ニュータウンの団塊の世代の男性が地域に戻れる人はおそらく3分の1であろうと。しかもその3分の1は、現役時代からPTAや自治会といった関わりと多少なりとも持っていた方であるとのこと。あとの3分の1は都心回帰で、究極は転居、引っ越しをする。あとの3分の1は引きこもりになるということ。</p> <p>本大学では公開講座を実施しているが、ここ数年特徴的なことは、参加者が文字通り団塊世代とおぼしき男性が増えてきていること。大学の周辺から講座に通ってこられる方々は、いわゆるインテリの方が多くて、現役時代、大手企業で管理職を務めていたような方が多く、その方々が地域デビューする居場所として大学の公開講座が最初の入口になるのかなという気がしている。その方々にいきなりまちなかの公民館のコミュニティカフェに来てくださいというのは、かなりハードルが高いと思う。大学の公開講座のようなところで知的本能をくすぐりながら、少しずつ地域の中になじんでいただくような仕組みづくりをしていくことが必要だろうと思う。</p>
<p>日野会長</p>	<p>高齢者あるいはリタイヤされた方にどのように街中に出て活動していただくかということは高齢化社会の中では非常に重要な課題だと思う。管理職や大学の先生など、偉そうにしている人は言ってあげないと出にくくなる。できるだけ参加していただけるような仕組みを検討いただきたい。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>今、コミュニティカフェが着々と進んでいるということと、認知症カフェが4カ所設置されているということも聞いている。認知症問題も非常に重要だと思うが、地域で一つのニーズとして財産管理の権利の擁護というところのニーズは結構聞いているところなので、その辺りもしっかりと取り組んでいかなければならない。</p> <p>高石市の高齢化が進んでいくなかで、しっかりとシステムを構築していかなければならない。医師会や介護事業者等との連携が非常に重要だと思う。</p>
<p>日野会長</p>	<p>前回と今回2回にわたって、基本的方向性にかかわる部分について、専門員の先生方から色々な意見をいただいた。それらを踏まえ、総合戦略に関する計画の立案</p>

事務局	<p>を進めていく。事務局から相談がある場合は対応お願いしたい。</p> <p>本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>
-----	---